

テーマ：光と影

対象年齢：5歳児

品川区立西五反田保育園

テーマ設定理由

戸外へ出た際に、自分の影に興味をもち、「なぜ」から始まり光に関心が広がる。自然の光だけではなく、人工的な光など光の種類、光によって生じる現象、特性など遊びの中で試したり自分達の遊びに取り入れたりしながら不思議さを子どもと担任と一緒に感じ、気づきや発見をクラス全体の学びにつなげているため。

事例①：紙コップライトを作ってみる

【活動内容】

- 紙コップとラップを使って映し出される絵を描く
- 紙コップに懐中電灯を入れて壁に絵を映し出す

【環境設定】

- ラップがかかった紙コップを人数分+ α 、黒マジック1人1本、細いマッキー4セット、ラップが破れてしまった時のためにラップ、懐中電灯人数分

【子どもたちの様子】

- ラップのたわみなども気づき、手で押さえながら描く姿もあった
- 男児、自分の手の影を机に写し、はっと気づいて「大きすぎると写らないんだよ」と気が付いて伝えあっていた
- 自分が動けば影も動くこと。光の中心には上手く写らない
- エアコンに光を当てて小さい光ができることなどに気が付いていた

【気づき】

- ・懐中電灯の種類を変えたり、近づけたり、遠くしたり、また場を変えたり、映してみたいものを自分なりに映して、見てみるなど、試してみようとする姿が多く見られたことはよかった。子どもの姿をとらえながら、次の行事につなげ、さらに光と影に興味をもてるようにしていきたい。

ねらい

- 太陽の光以外の光でも影ができることを知る
- 自分が描いた絵が映し出されることを喜ぶ
- 光（懐中電灯）との距離で大きさが変わること気付く



事例②：虹を作る

【活動内容】

- OCDの裏面に懐中電灯を当ててみる→虹ができる
- 「大きい虹にするには？」の保育者の問いかけにCDや懐中電灯を動かして試す
- 背景が白以外のものにも光を当てる

【環境設定】

- 使わなくなったCD、懐中電灯、スクリーン

【子どもたちの様子】

- 遊び出す前にCDだけを見せると「キラキラして虹の色が見える」と言う
- OCDを手を持ちたり、机に置いたりしながら懐中電灯を当てる
- OCDを2枚並べて懐中電灯を当てる
- 映す場所を上履きや洋服、顔にすることで「足もレインボー」「顔もレインボー」と喜ぶ

【気づき】

OCDの裏面に懐中電灯を当てると虹色が映し出されることがすぐに分かったので、参考にした本をみんなで見ながら「大きい虹にするには？」と問いかけた。すぐに様々試し、更にそこから新たな楽しさや発見をしてみんなで盛り上がるようになっていた。小さな問いからこんなにも膨らむのだと感じた

ねらい

- 身近なものを使って光遊びを楽しむ
- 光を当てるとどうなるか考えてみる



事例③：3Dアート

【活動内容】

- あらかじめ紙に好きな絵を描く（その後、保育者が絵をスキャンして90度回転させながら4方向に同じ画像を置いてプリントアウトしておく）
- 自分たちで描いた絵をタブレットで撮影し、ホログラム台を使って投影する

【環境設定】

- 紙、色鉛筆、プラ板で作ったホログラム台、タブレット

【子どもたちの様子】

- 事前に、保育者が用意した映像で3Dホログラムを見た後だったので自分たちが描いた絵が浮かび上がると歓声をあげ、ホログラム台の中に手を入れてみている
- 最初は絵が浮かびあがる不思議さを感じていただけだったが、ホログラム台の向きを変えたらどうなるか、角度を変えたらどうなるかなど自分達で試していた
- 友達が試してみた様子を見てどうしたらできるのかを聞いたり自分が試したらどうなったのかを知らせたりと自分たちが経験したことを言葉にして共有していた

【気づき】

- 予定では、タブレットの上に組み立てたプラバンを置き、描いた絵を浮かせる予定だったが、最初に紙（原紙）とプラバンを渡したところ、その状態でもうっすら浮いていることに子ども達の声から保育者自身も気付くことができた。また、タブレット×プラバンの組み合わせの中でも、プラバンの置く角度を変えてみたり、上下逆さまにしてみたり、他のグループからプラバンを借りて2組を組み合わせたりと、子ども達が様々試すことでいろいろな見え方があった

ねらい

- 自分で描いた絵が浮かび上がる不思議さを感じる
- 試したり工夫したりしながら自分なりの方法で投影してみる

